

《文しょうもんだい 10》

しの もんだいを やって みよう。こたえを
しの 中から みつけよう。

【れいだい】

つぎの しを よんで、といに こたえよう。

① の日

ぼくは あめが きらいだ。

あめの 日は そとで あそべないから。

きょうは 一日中、 あめだ。

ざあざあ、

ざあざあ、

②、

ざあざあ。

ずっと いえの なかで

あめの 音を きいて いたら、

たまには あめの 日も

いいかなと おもった。

(1) ①に 入る ことばを しの 中から 二字
でさがして、しの だいを かんせい させ
よう。

の 日

(2) ②に 入る ことばを、アから ウから え
らぼう。

ア しとしと イ さくさく
ウ べとべと

【こたえ】

(1) あめの 日

(2) ア

【かいせつ】

(1) この しは どんな 日の ことについて
かかれて いるのかを かんがえます。しの
ないようから、あめの 日の ことについて
かかれて いる ことが わかります。

(2) あめが ふって いる ようすを あらわす
ことばを えらびます。

つぎの しを よんで、といに こたえよう。

けんかを した。

かなしい おはなしを よんだ。

とっても うれしい ことが あった。

いろんな ことが ある たびに、

わたしたちは なみだを ながす。

なみだを ながした あとは

なんだか とっても すっきり する。

きつと なみだが こころの なかの

おそうじを して くれて いるんだ。

(1) この しの だいに ふさわしい ことばを

しの ^{なか}中から ^{さんじ}三字で みつけて こたえよう。

(2) わたしたちは どういう ときに なみだを

ながしますか。□に ^{はい}入る ことばを かこう。

を した とき

かなしい

を

とき

とっても

ことが

あった とき

(3) なみだを ながした あとは、どう なりま

すか。□に 入る ことばを かこう。

とっても

する

つぎの 文しょうぶんを よんで、といに こたえよう。

もう 三日みっかかんも 雨あめが ふりつづいて います。とうこは、このままだと あしたも 雨あめが ふつて しまうのでは ないかと、とても しんぱいして いました。なぜ そんなに 天気てんきを 気きにするかと、いうと、あしたは うんどうかいがあるからです。

とうこは、あした はれる ように てるてるぼうずを つくる ことに しました。

(1) とうこは なにを しんぱいして いますか。
□に 入るはいる ことばを かこう。

あしたも

が

のでは ないかと いう こと

(2) なぜ とうこは そんなに 天気てんきを 気きに して いるのですか。□に 入るはいる ことばを かこう。

が あるから

は

(3) あしたは はれる ように、とうこが つくったものは なんですか。



つぎの しを よんで、といに こたえよう。

① の 日

つめたい かぜが

② ふいたので

赤^{あか}や きいろ

いろとりどりの 木^きの はっぱは

一^{いち}まい のこらず

とおくへ とんで いきました。

(1) ① に、きせつ^なの名まえを 入^いれて、し^の

だいを かんせい^{させよう}。

の 日

(2) ② に 入^{はい}る ことばを、アから ウから え

らぼう。

ア びゅうびゅう

イ ぬるぬる

ウ ギザギザ

エ でこぼこ

(3) とおくへ とんで いった ものは なんて

すか。□に 入^{はい}る ことばを かこう。

いろとりどりの

の



つぎの 文^{ぶん}しょうを よんで、といに こたえよう。

もう 一^{いっ}しゅうかん 雨^{あめ}が ふりつづいて います。

けんじは、このままだと あしたも 雨が ふつて しまうのでは ないかと、とても しんぱいして いました。なぜ そんなに 天気^{てんき}を 気に するかと いうと、あしたは えんそくが あるからです。

けんじは、あした はれますようにと てるてるぼうずを つくる ことに しました。

(1) 雨は どれくらい ふりつづいて いますか。

(2) けんじは なぜ 天気を 気に しているのですか。□に 入^{はい}る ことばを かこう。

あしたは

があるから

(3) けんじは はれますようにと なにを つくる ことに しましたか。



つぎの しを よんで、といに こたえよう。

ふうせん

赤い^{あか} ふうせんが

青い^{あお} 草の^{くさ} じゅうたんの^{うえ} 上を

すべる ように とんで いきます。

ゆく あても なく

どこまでも と。

きょうは わたしの ところへ、

あしたは あなたの ところへ。

ふうせんの たびは、

まだ はじまったばかり。

(1) ふうせんは どこを どのように とんで
いますか。□に 入る^{はい} ことばを かこう。

青い^{あお}

の

の

上^{うえ}を

に とんで いる

(2) □には、ふうせんが とんで いく ようす

を あらわして いる ことばが 入ります^{はい}。

つぎの アから ウから えらぼう。

ア ひやひや

イ つやつや

ウ ふわふわ



つぎの しを よんで、といに こたえよう。
なつやすみ

まっさおな そら 空に

まっ白しろい 大おおきな にゅうどうぐも

たいようは じめんを じりじり てらして

せみは みんなで だいがっしょう

なつが

「いっしょに あそぼう」

と ぼくを さそうから

山やまのように のこった しゅくだいは

これっぽっちも すすまないんだ

(1) なつの ようすを つぎの ように まとめ

ました。□に はい 入る ことばを かこう。

な そら 空に、まっ白しろい 大

きな が でて いる。

たいようは、じめんを

てらして いる。

(2) どうして 山やまのように しゅくだいが のこ
るのですか。□に はい 入る ことばを かこう。

が 「いっしょに

」と ぼくを

から



クロスワードに ちよつせん。

1 したの ヒントを みて あっているマスに ことばを しれましよう。

★1 ふ			ん				
			い			う	
		こ					
					き		
		び					
							か
★6 く		ず				ら	
				ね			
★7	か	さ					ど
						ら	
			★8 ★1				★2

★たてまの ヒント

- ★1 ゴムの ふくろに しきを ふきこんで ふくらませたもの
- ★2 そのぼしよから うごいて はなれること
- ★3 ゆるやかなかわ いけ、ぬまなどで みられる おおがたの たんすいきよ
- ★4 みずが おちてくる ぼしよ
- ★5 ようぶくの くびまわりに ついている
- ★6 たぐたごが ないのに きらい だと きめこむこと
- ★7 いんちぎの こと
- ★8 ひらたい おけ。むかしのひごが せんだくを するときに つかった

☆よこまの ヒント

- ★1 ねぎの なかま。かしーライスに はいって いたり、サヲタにも はいっている
- ★2 ちかすいを くみとる おちたら たいへん!
- ★3 やくみや ちようみりようにつかわれる からくて おすしに はいっている
- ★4 ふねが なかれないために、みずごに しずめておく おもり
- ★5 でんしやに のれる ぼしよ
- ★6 びようきが なおつて びよういを そつぎよう すること